

イデックスオイルレポート ~For a month~

2023年10月2日作成 (株) 新出光

【月次概況】

●第1週、9/1のWTI原油は、先週比5.72ドル高の85.55ドルとなりました。石油輸出国機構(OPEC)加盟・非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」は今年6月、来年までの減産継続で合意。これとは別に、サウジアラビアとロシアは8月から自主的に生産と輸出を削減しているが、10月も両国が供給制限を続ける公算が大きいと伝わり、朝方からほぼ1本調子で上伸した。

●第2週、9/8のWTI原油は、先週比ドル1.96高の87.51ドルとなりました。サウジアラビアとロシアは今週、現行の自主的な供給削減方針を年末まで延長すると表明。両国の削減量は日量計130万バレルに上る。石油輸出国機構(OPEC)加盟・非加盟で構成される「OPECプラス」も協調減産を継続する見通しのため、原油需給が年末にかけてタイトになるとの警戒感が根強い。

●第3週、9/15のWTI原油は、先週比3.26ドル高の90.77ドルとなりました。サウジアラビアとロシアが今月、日量130万バレルの自主供給削減を年末まで延長すると発表した以降、市場では需給逼迫(ひっばく)観測を背景に相場の騰勢が続いている。この日は対ユーロでドル売りが優勢となったことで、ドル建てで取引される原油の割安感につながったことも、原油の買いを後押しした。

●第4週、9/22のWTI原油は、先週比0.74ドル安の90.03ドルとなりました。ロシアは21日、旧ソ連構成国4カ国を除く全ての国を対象にガソリンとディーゼルの輸出を一時的に禁止すると発表した。同国国営パイプライン運営会社トランスネフチは22日に、バルト海と黒海の主要ターミナルであるプリモルスキーとノボロシースクへのディーゼル輸送を停止した。これを受けて、市場では原油供給不足への不安が再燃した。

●第5週、9/29のWTI原油は、先週比ドル0.76高の90.79ドルとなりました。2023会計年度末を翌30日に控え、過半数を占める野党共産党が提案した10月末までのつなぎ予算案を反対多数で否決。予算切れとなれば10月1日から政府機関の一部が閉鎖される。加えて、世界最大の石油輸入国である中国の景気先行きにも不透明感が広がる。経営再建中の不動産開発大手、中国恒大集団は28日、許家印会長が犯罪に關与した疑いで拘束されたことを確認。また、香港証券取引所は同日、恒大の株式取引を停止したと発表した。エネルギー消費大国である米中のマクロ経済への懸念がエネルギー需要減退への警戒感につながり、売りが優勢となった。

	9月平均	WTI原油	89.43ドル	前月比	8.11ドル	為替 1ドル	148.73円	前月差	2.89円
--	------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	変動幅	変動幅
9/1~9/6	9.7	±0	±0
9/7~9/13	17.4	+2.0	+2.0
9/14~9/20	26.1	+3.5	+3.5
9/21~9/27	30.5	+3.0	+3.0
9/28~9/30	32.1	+1.0	+1.0

【単位：円/KL】

メニュー価格推移	0.5HPP		ENEOS LS 船用燃料油基準価格	
	2023年4-6月C重油決定価格	87,660	89,660	87,660(メニュー) +2,000(プレミアム)
2023年7-9月C重油決定価格	89,730	91,730	89,730(メニュー) +2,000(プレミアム)	
2023年7-9月C重油決定価格	92,950	94,950	92,950(メニュー) +2,000(プレミアム)	
決定価格4-6月比	5,290	5,290		

【単位：円/KL】

内航燃料油価格推移	適谷油価格		A重油	
	2023年4-6月C重油決定価格	95,100	97,200	
2023年7-9月C重油決定価格	97,130	0		
2023年7-9月C重油決定価格	100,400	109,600		
決定価格4-6月比	5,300	12,400		

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/k l	ドル/b b l	円/ドル	前月比
	23/8	9桁速報	73,500	82.08	142.36	1,447
	23/9	最終予測	83,306	90.46	146.42	9,806
	23/10	展望	85,311	95.44	142.00	2,005
	23/11	展望	84,840	96.27	140.00	-471

【次世代エネルギー】 < NEC・ENEOS・日通、EVトラックの普及拡大に向けた経路充電の実証実験を福岡県内にて開始 >

NEC、ENEOS、日本通運、EVトラック普及拡大に向けた経路充電の実証実験を開始。

EVの中でも、輸送時の二酸化炭素排出量削減に大きく貢献できるとされるEVトラックは長距離走行に必要な経路充電可能な充電ステーションの場所が限られており普及における課題となっております。そこで3社は、EVトラック普及拡大に向け、経路充電の有効性の確認および運用方法の確立を目的とした実証実験を行います。

本実証実験を踏まえ、NECは、日本通運のEVトラックの実運行データを活用し開発したシミュレーションロジックを起点とするEV運用支援アプリケーションの価値向上を目指します。ENEOSは、本実証を皮切りにEVトラックユーザーの充電ニーズに応じた経路充電ネットワークの拡充を図ってまいります。日本通運は、EVトラックの運行データを活用することで、EVトラックなどの環境配慮車両の導入を積極的に進め、お客様のサプライチェーン全体を通じて環境負荷の少ない物流を提案してまいります。

今後も3社はEVトラックの普及拡大を通じて、わが国の温室効果ガス排出削減目標の達成への貢献を目指します。

出典：日経電子版 https://www.nikkei.com/article/DGXZRSP661530_U3A900C2000000/

【10月価格変動要因】

●需要：中国の景況感は、2024年にかけて緩やかな需要回復というシナリオは不変。2024年末にかけて過剰となっている不動産在庫を掃き出して以降、ようやく信用不安は底打ちするだろう。

欧州の景気後退がより深刻である。高金利環境が常態化した結果、在庫保有を削減する動きが広がり、製造業中心に経済活動が縮退している。建設セクターの動きが非常に緩慢で、特にドイツの景況感の悪化が著しい。同国はウクライナ紛争以前はロシアからの安価なエネルギー供給が景気の下支えともなっていたが、足元のエネルギー高が逆風となっている。

●供給：サウジアラビア中心にOPECが協調減産を続ける中、米国産原油の引き合いが強まっている。今月のダラス連銀調査によれば足元の原油高を反映して主要原油・ガス生産州におけるエネルギー企業の掘削活動が活発化してきている側面もあり、今後はリグ稼働数の増加と共に米国の原油生産の増加が期待される。材料視されやすいのはOPEC会合である。

原油高騰と高マージンにより、ガソリンは同時期では10年ぶり高値圏に位置。冬場にかけては暖房需要の増加により再び製品価格の上昇可能性があり、マージンは高水準で維持しやすい。

●在庫：原油・ガソリン在庫はともに取り崩し傾向となっており、需給のタイトニングを示唆している。米国のクッシング在庫は貯蔵能力の25%水準まで取り崩しが進んでいる状況。

●リスク資産・金融市場：原油価格が上昇トレンドにあり、消費者信頼感に与える影響には留意したい。インフレ再燃リスクが高まれば金融政策としてはタカ派傾斜を一層強めかねず、政策運営の先行き不透明感が高まれば市場の動揺に繋がりがやすい。

<1ヶ月価格見通し> (単位：US/b b l)

	Brent	WTI
High	99	98
Average	93	92
Low	88	87

<3ヶ月価格見通し> (単位：US/b b l)

	Brent	WTI
High	96	95
Average	91	90
Low	83	82

日付	国	10月経済指標カレンダー	日付	国	10月経済指標カレンダー
2	米国	9月ISM製造業景況指数	26	ユーロ	欧州中央銀行(ECB)政策金利
4	米国	9月ADP雇用統計	26	米国	7-9月期四半期実質国内総生産(GDP、速報値)
6	米国	9月平均時給	26	ユーロ	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見
6	米国	9月非農業部門雇用者数変化	27	米国	9月個人消費支出
6	米国	9月失業率	29	ユーロ	9月消費者物価指数
11	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨	31	ユーロ	10月消費者物価指数(HICP、速報値)
12	米国	9月消費者物価指数	31	米国	7-9月期四半期雇用コスト指数
17	米国	9月小売売上高			
18	ユーロ	9月消費者物価指数			
25	米国	9月新築住宅販売件数			